

# 定例自然観察会実施報告書

2023年8月23日（水）

2班 矢野紀美子

実施日	2023年8月19日（土）
テーマ	六甲山上で夏の植物を観る
コース	アスレチックパーク前（グリーンシア前）～北側歩道～ミュージアム前
集合	10時20分 六甲山上バス停 アスレチックパーク前
解散	14時15分 六甲山上バス停 ミュージアム前
参加者	ビジター 27名と子供3名                      会員 31名（2班18名を含む）

15日の台風の影響で六甲ケーブルは当分運行できず代替バスが運行されるという情報が入り、16日夜「集合時間を20分遅らし代替バスを利用」とホームページに掲載し、定例観察会当日を迎えた。幸い、六甲ケーブルは19日当日朝から動き出し、代替バス利用による予定時刻より早くビジターの皆さんが集合してくださった。5つの班に分かれて、1・2班は10時ごろ、3班、4班と順次出発し、5班の皆さまには集合場所のフェンスのつる植物を観察しながら、10時20分の集合時刻まで待っていただき出発。アスレチックパークの第1駐車場まで、車道を歩き、「つる植物」を中心に観察が始まる。



キカラスウリ



ゲンノショウコウ

第一駐車場を過ぎたあたりにキカラスウリの花があり、ノササゲの黄色い花も咲き始める。足元にはゲンノショウコウの花、濃い赤やピンク、あっしろも。子供たちがしゃがんで、一生懸命観察している。上を見上げると、木々に絡んだボタンヅルの花が咲き誇っている。ノリウツギの花も残っている。



ボタンヅル

サンカクヅルの鋸歯を観察。あっアオツヅラフジも目に入る。サルナシとマタタビの違いを説明。サルナシの実を見つけ、半分に切る。キウイフルーツの小型版である。 ヤマノイモには小さなむかごがついている。



ホドイモの花



ゆっくり歩いていると頭上にエゴノキの実を発見。エゴノキの実のサポニンについて説明する。歩いていくうちにオオカメノキの赤い実が目に入る。よく見ると夏のこの時期にすでに冬芽を用意している、植物はすごい！ホドイモのかわいい花も目に入る。

ヤブデマリのかっこいい樹形を眺めマユミ、コマユミ、ウメモドキを観察し午前の観察終了。

心経岩のあたりで、アサギマダラと遭遇。案内人が指を出すと、アサギマダラが指に。子供たちの指に移そうとしたが、失敗。指にとまっているアサギマダラを見つめる子供たちの真剣な目は少し悔しそう。昼食休憩をしているあたりで、めずらしい「スミナガシ」に遭遇。出会えた方々はラッキーでしたね。30分の休憩の後、吉祥院多門寺奥の院（心経岩・六甲比命神社・紫雲賀岩・仰臥岩）の説明をし、午後の観察開始。台風の影響で足元が悪くなっているの、ゆっくりと下ると、オトコヨウゾメ。実を触ると、平べったい。さらに下るとイケマの実を発見。また少し行くとマタタビの虫こぶが見える。

さらに歩くとホツツジの花があちこち目に入り始める。再びホドイモの花やタンナサワフタギの実を観察しながら歩いていると、ツリバナのまだ青いが5裂する実が目に入る。足元にはアキチヨウジの花がぼつぼつ咲き始めている。そしてヤマジノホトトギスの花。「本日のハイライトですと案内すると、皆さん携帯での撮影開始。



アサギマダラが指に  
(写真提供：ビジターさん)



イケマの実



スミナガシ

ホツツジ

ヤマジノホトトギス

オオカメノキの冬芽



ホツツジ



ヤマジノホトトギス



オオカメノキの冬芽

茎がスッと伸び、先に黄色い花をつけているヤマニガナがあちこちで目に入る。リョウブの花の香りを確認、いい香りである。ヤマナラシの親木と根萌芽の幼木、無風でヤマナラシの葉の揺れは見ていただけなかったが、葉の特徴を説明すると、うなずいてくださる。

下から見ると似ているトチノキとハウノキの葉の違いを説明し、山上バス停ミュージアム前で解散、「お疲れさま」。最後の班の皆さんも 14:18 のバスで帰途につく。